

## 熊本地震で学んだ 「いま」を大切にする生き方。

熊本教会 堀口隆子さん

平成28年4月14日に発生した熊本地震の後、熊本市内に住む堀口隆子さんは、震源地である益城町の家族や仲間たちのもとに駆けつけた。家が全半壊している状況でも、前を向いて歩みだそうとしている人が多かったのだが、なかには、厳しい現実を受けとめられない人もいて、そういう方のもとへ訪れ、心に寄り添う活動を続けていた。あるとき、堀口さんが尊敬する人が慰問に訪れ、その言葉によって気づかされたことがあった。それは、過去に執着したり、未来を思いわずらったりせず、二度とない「いま」を生きることの大切さだった。震災から2年経ったいまも仲間の多くが不自由な生活を強いられている。だからこそ、一人ひとりと真剣に向きあい、苦しみを共有できる自分でありたいと願っている。そして、一つ一つの出会いを大事にしていく——それが、震災から学んだ「いま」を大切にする生き方だと堀口さんは受けとめている。



## 和らぎをもたらす言葉

釈尊の基本的な教えである「八正道」の二つに、「正語」があります。真理にかなう言葉を語るといいますが、私たちはふだん、そのように「正しく語る」ことを、ほとんど意識していないのではないのでしょうか。ですから「正語」といわれても、すぐに生活実践と結びつく人は多くないかもしれません。それでも、日ごろ人と接する際、私たちはその場が和むような会話を自然にしているはず。なぜなら、そのほうが楽しいからであり、そして、安らぐからです。

ただ、私たちはときに、調和や和合を乱すような言葉を使ってしまいます。その第一は、自分に都合のいい嘘をついたり、真実を偽って伝えたりすることです。

釈尊は、在家の弟子に向けた説論のなかで、「他人に向かつて偽りをいってはならない」と明言されています。また、「自分を苦しめず、他人を傷つけることのない言葉だけを語りなさい」ともおっしゃっています。嘘は他人を惑わせ、和合を破り、結局は自分を苦しめるのです。そのように考えると、「正語」を実践するうえで大事なものは、何をどう話すかということよりも、正直に生きる誠実さを忘れないことなのかもしれません。

## 立正佼成会

www.kosei-kai.or.jp Eメール: info@kosei-kai.or.jp  
〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号 TEL.03-5341-1615

創立  周年